

トビウオ通信 (R5 第1号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-23-4806)

《令和4年漁期前半(8月～12月)の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和4年漁期前半(令和4年8月～12月)の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業(かけまわし)」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業(2そうびき)」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業(かけまわし)

1隻当り漁獲量は平年並み、金額は上回る

島根県の小型機船底びき網漁業(かけまわし)37隻の令和4年漁期前半(令和4年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,583トン、総水揚金額は8億7,386万円でした。1隻当り漁獲量は44トンで平年並み、水揚金額は2,411万円で平年を上回りました(平年値:47トン、2,150万円)。

ソウハチは平年並み、ムシガレイは平年を下回る

主要魚種であるソウハチは1隻当り漁獲量が6.0トンで前年の8割、平年の9割の水揚げでした。ムシガレイは1隻当り漁獲量が1.1トンで、前年の8割、平年の6割の水揚げでした。メイタガレイは1隻当り漁獲量が0.3トンで、前年の4割、平年の5割の水揚げでした。

ケンサキイカは4年続けて低調、ヤリイカも低調

ケンサキイカは1隻当り漁獲量が0.3トンで、前年の1.5倍、平年の3割となり、記録的な不漁であった令和元年漁期(0.1トン/隻)以降、低調な水揚げが続いています。一方、ヤリイカは1隻当り漁獲量が1.6トンで、低調であった前年は上回りましたが(前年の3.8倍)、平年の6割と低調な水揚げでした。

アンコウ類は好調、キダイ平年並み、アカムツ・ニギスは下回る

アンコウ類は1隻当り漁獲量が6.2トンで、令和元年漁期以降、好調な水揚げが続いています(前年の1.1倍、平年の1.3倍)。アカムツは1隻当り漁獲量が1.5トンで、前年・平年の7割の水揚げでした。キダイは1隻当り漁獲量が3.8トンで、平年の1.0倍と平年並み、ニギスは1隻当り漁獲量が3.5トンで平年の9割の水揚げでした。

その他、アナゴ類は1隻当り漁獲量が3.7トンで、前年・平年並みの水揚げでした(前年の9割、平年の1.1倍)。マダラは1隻当り漁獲量が1.3トンで、前年は上回るものの(前年の1.4倍)、平年の4割に留まる低調な水揚げでした。

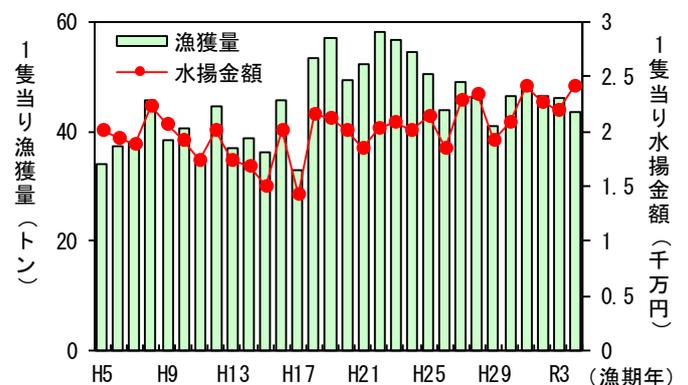


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の9月～12月)

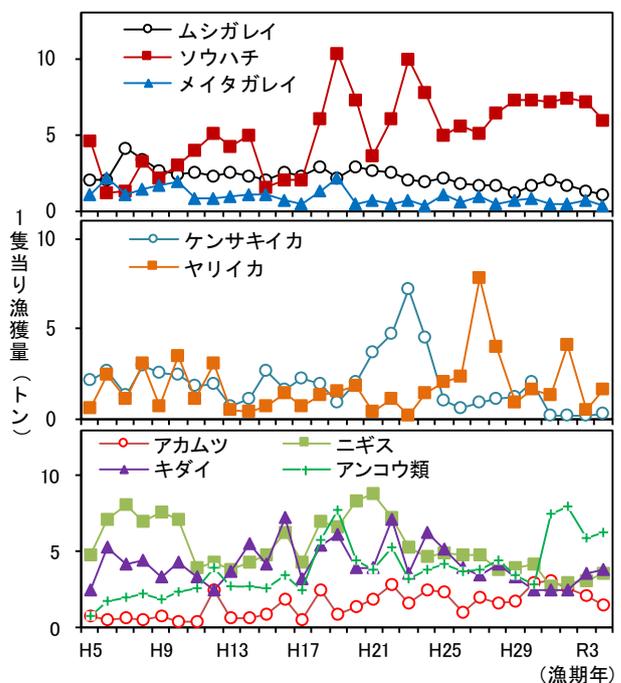


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の9月～12月)

<文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年[平成24年漁期～令和3年漁期の漁期前半(8月～12月)]の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業 (2 そうびき)

1 統当り漁獲量は平年並み、金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業(2 そうびき)4 統(8 隻)の令和 4 年漁期前半(令和 4 年 8 月 16 日～12 月 31 日)の総漁獲量は 1,204 トン、総水揚金額は 7 億 9,421 万円でした。1 統当り漁獲量は 301 トンで平年並み、水揚金額は 1 億 9,855 万円です(平年値:309 トン、1 億 6,605 万円)。

ムシガレイ・ソウハチはともに平年を下回る

主要魚種であるムシガレイは 1 統当り漁獲量が 20 トンで、前年の 1.0 倍、平年の 6 割の水揚げでした。ソウハチは 1 統当り漁獲量が 11 トンで、前年の 8 割、平年の 5 割の水揚げでした。ヤナギムシガレイは 1 統当り漁獲量が 7.1 トンで、前年の 6 割、平年の 9 割の水揚げでした。

ケンサキイカは 4 年続けて低調、ヤリイカも低調

ケンサキイカは 1 統当り漁獲量が 6.0 トンで、低調であった前年は上回りましたが(前年の 1.6 倍)、平年を下回りました(平年の 4 割)。記録が残る昭和 56 年漁期以降で最低であった令和元年漁期(前半:2.8 トン/統)以降、低調な水揚げが続いています。

一方、ヤリイカは 1 統当り漁獲量が 2.1 トンで、低調であった前年(令和 3 年漁期前半:0.4 トン/統)を上回りましたが(前年の 4.8 倍)、平年を下回る(平年の 3 割)水揚げでした。

キダイは好調、アカムツは平年並み

キダイは 1 統当り漁獲量が 71 トンで、前年・平年を上回る水揚げでした(前年・平年の 1.9 倍)。アカムツは 1 統当り漁獲量が 31 トンで、前年の 7 割、平年の 1.1 倍の水揚げでした。

ニギスは 1 統当り漁獲量が 0.6 トンで平年の 1 割、アンコウ類は 1 統当り漁獲量が 14 トンで平年の 7 割、アナゴ類は 1 統当り漁獲量が 33 トンで平年の 1.3 倍の水揚げでした。

その他、今漁期はアマダイ類(主にアカアマダイ)が 9 月、10 月に多く漁獲され、1 統当り漁獲量は 8.4 トンで、前年・平年を上回る水揚げでした(前年の 1.6 倍、平年の 2.4 倍)。

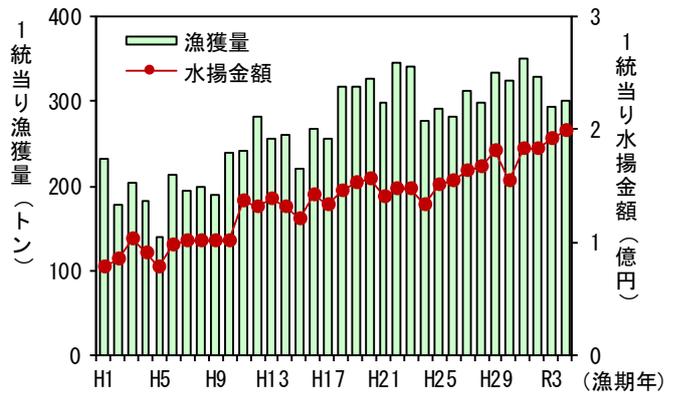


図 3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の 8 月～12 月)

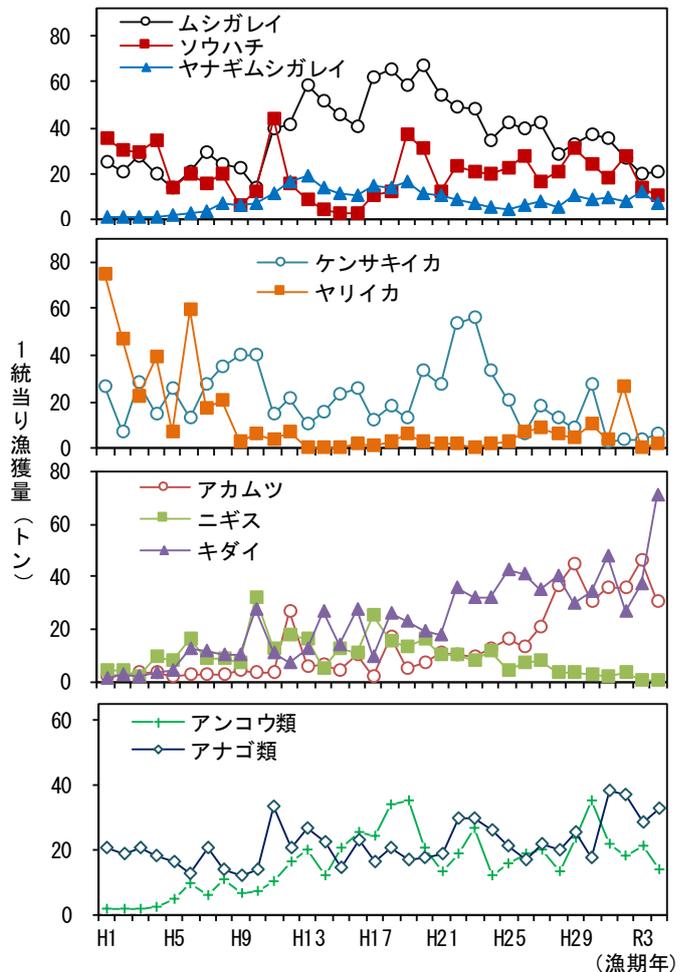


図 4 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 主要魚種の漁獲動向(各漁期年の 8 月～12 月)